

スローガン 「変革の能動者たれ ～魅力あふれる浦安の創造～」

☆ 基本方針

【いざ、行動改革】

グローバル化や情報化が目まぐるしいスピードで進み、我々を取り巻く環境も急速にその姿を変えています。今や、わずか数年で、いえ数ヶ月でそれまでの社会構造や、人々の考え方が大きく変貌してしまう激流の中を、私たちは生きています。いつまでも同じサービス、同じ商品を提供している会社は淘汰され、現状維持に満足している人はリストラされる。そんな時代であると言えます。

このような時代のなかで私たち青年会議所が、市民から必要とされ、地域のリーダーとして認められていくために最も必要なのは、「行動すること」です。孔子の言葉に、「先ず其の言を行い、^{しこう}而して後にこれに従う」とあります。これは、孔子が弟子の子貢に、初めから知識に依拠した主張を行うのではなく、まず自分がその主張に見合った行動をしてから、その後で思想や理論の主張をなさいと諭したときの言葉です。

我々青年は、可能性を切り拓き、高い目標をもち、失敗をおそれずに主体的に行動していく。このことこそが重要であり、明るい豊かな社会の実現に向けた市民意識の変革は、自らの行動改革によって創造されるものなのです。

【人をひきつけるJCとなるための組織拡充】

「規模に関係なくその衰退の最初の兆候は、有能で、野心的な人をひきつけなくなるといふ、魅力の喪失である」（ピーター・ドラッカー）。

私たちJCも、人をひきつける魅力ある組織であり続けるためには、常に新しい価値観を生み出していかなければ、衰退への道を歩んでいくことになるでしょう。組織活性化のバロメーターは、新入会員の数と現役メンバーの熱意であり、魅力があれば、多くの人がJCの門を叩くはずで

す。20歳から40歳までのメンバーで組織されるJCは、毎年、多くの仲間が卒業していきます。様々な業界や業種の方が集い、お互い切磋琢磨し合える組織に変革していくことで、新たな価値を生み出だせるようになり、メンバーの英知を結集することができるのです。

また、地域に密着している企業とJCが、より繋がりを強固なものとしていく必要があり、地域活性化に向け、WIN-WINとなるよう、関係構築を図っていきます。

【誇りと自覚】

浦安JCは、東日本大震災後、液状化で多大なる被害を受けたまちを、復旧に向け、自治体をはじめとする地域団体やボランティアと連携をとりながら、地域のリーダーとしての担いを全うしてきました。JCに緊急対策のマニュアルがなくても、しっかりと対応できたのは、JCとして、まちのために先頭に立って行動していかなければならないという普段の心構えができていたことが大きいといえます。

これからもJCとしての誇りと自覚を全員が一律にもっていくためには、しっかりとした人材開発プログラムをつくり、組織力を高め、人が育つ基盤を構築していきます。人は、ほんの少しの行動により、習慣を変えることができ、習慣を変えることができれば、新たな価値観を得て、成長できていきます。わずか一歩踏み出すことで、JCは高い志をもつ者へと成長できる人生の修養道場になっていきます。

【デジタル世代にこそ必要な就業体験】

何かを調べたいと思ったときに、図書館を訪れ、実際に見て確認することが、インターネットの普及により、少なくなってきたのではないのでしょうか。私も10年程前から、インターネットの検索によって、調べ終わることが多くなってきました。学生の就職活動も大きく様変わりし、OB訪問よりも、インターネットで志望企業を検索、分析し、エントリーすることが可能になりました。

そのような中、学生に感じて欲しいことは、実際に見聞きし、経験によって得られた価値観をきっかけに、人は成長することができるということです。企業が就業体験を通じて、学生の斬新な発想を取り入れると同時に、学生と真摯に向き合うことで、学生が「その仕事、私がやります」という能動的かつ創造性もった社会人としての意識へと変わっていくはずです。

日本一若いまちといわれる浦安市にとって、高い志をもつ若い力と地域をつなぎ、将来を担う若者に愛郷心を醸成することは重要であり、昨年度、浦安市と協働で、就業体験事業を実施致しました。今年度は、企業と地域と若者と三位一体となることで、地域の経済活性化につなげていきたいと考えます。

【次代を担う子どもたちのために】

ソーシャルメディアの進展やスマートフォンの急速な普及により、利便性が向上する一方で、ネットの長時間利用により実生活に悪影響が出る、いわゆる「ネット依存」と呼ばれる事例が一部で問題となっています。総務省の「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」によると、自分をネット依存だと回答した高校生、大学生が40%となっています。このネット依存という問題が将来、小・中学生にも波及していくのも時間の問題です。

地域の青少年教育においては、現実世界での「生きる力」を育んでいく必要があります。現在の学校や家庭での青少年教育では、様々な取り組みを行政も行っていますが、機会やプログラムが十分にあるとはいえ、文化や芸術、スポーツなどネットやメディアを通じるのではなく、「本物」に直接触れられる体験がなにより重要です。

青少年が一流と呼ばれる人に触れることで、すぐに結果が出なくても強い意志をもって何事にも取り組む大切さや想像を越えたパフォーマンスを五感全体で感じ、次代を担う子どもたちの人格形成に向け、取り組んでいきます。

【魅力あふれる未来に向けて】

企業は、お客様のニーズから物事を考え、お客様に対して新しい満足を生みだしていくことにより、顧客を創造し、経営を継続しています。JC運動もこの経営感覚を兼ね揃えていくべきです。目先の利益でない、本物のお客様第一主義の組織運営を確立することが、長く存続する秘訣だと考えています。

私たちJCは、毎年、トップが変わり、組織が変わりながら、運動を展開していくのが特長です。メリットも多いですが、先見性のある種を蒔き、水をやり、芽が出て、花が咲く。花を咲かせていくまでの運動ができていないのも事実です。

浦安JCでは、青年らしい夢と希望溢れる政策提言の策定をはじめました。まちの未来に向けて歩みを進めていくためには、この政策提言をもとに、同じベクトルを向いて花を咲かせるまで長く運動を展開していかなければならないことが多くあります。2015年の浦安JC創立35周年に向けて、浦安市民に対して新しい価値を生みだしていく5ヶ年運動方針を策定し、運動の道筋を定めていきます。

【浦安の歴史、いま、そして未来へ】

ソクラテスの「無知の知」には、自分は、実は自分のことが何もわかっていないのだということに気づいたというという言葉があります。我々浦安JCのメンバーは、どれだけ浦安のことを知っているのでしょうか。どれだけ、浦安の市政のことを知っているのでしょうか。どれだけメンバーのことを知っているのでしょうか。そして、浦安のことをどれだけ語れるだろうか。

1889年（明治22年）に、堀江、猫実、当代島の3つの村が合併し、人口5,946名の浦安村が誕生したときからの浦安の歴史、文化、経済をあらためて学び、共有することが、運動を展開していく基礎となります。市長をはじめ、市役所職員や他団体とともに「誇れる浦安」を創造するためにも、メンバー全員が、過去、現在、そして未来を語り、浦安の魅力を伝播していくことが求められています。

【さいごに】

我々は、J C、仕事、実生活において、様々な場面で、毎日決断をしています。その決断を後悔しないものとするためには、多くの経験を積むことで、多くの判断材料を持つことしかありません。しっかりとした覚悟をもった決断が青年世代である我々には求められています。成功の裏には、必ず、失敗や挫折を乗り越えた経験があります。経験を明日への希望、明るい豊かな社会へと繋げるために、我々は、まず人より先に行動し、経験する必要があります。

迷う前に行動しましょう。機会をチャンスと捉えましょう。道なき道を進むことが財産となります。浦安J Cメンバーよ、変革の能動者たれ。

☆ 事業計画

- ・ 20名以上の会員拡大
- ・ 誇りと自覚あふれるJ a y c e eとなるための人材開発
- ・ 就業体験を通じた学生と企業をつなぐ地域活性化事業の展開
- ・ 本物を体験できる青少年健全育成事業の展開
- ・ 政策提言を用いたこれからの5ヵ年運動方針の策定準備
- ・ 浦安市長選挙に向けた有権者に対する意識変革運動の展開
- ・ 基礎を築く積極的な交流会の開催
- ・ O B親睦会の開催
- ・ 寄付金付きごみ袋の普及促進
- ・ 第26回わんぱく相撲浦安場所の開催
- ・ 公益社団法人日本青年会議所への積極的な支援・協力
- ・ 各出向者への積極的な支援・協力